



ThemiStruct
テミストラクト

クラウド、Web APIの活用と アイデンティティによるアクセス管理

株式会社オーグス総研
サービス事業本部 テミストラクトソリューション部

八幡 孝

自己紹介



八幡 孝（やはた たかし）

- 株式会社オージス総研
- テミストラクト関連サービス 東日本エリア責任者
- テミストラクト商品開発 リードアーキテクト
- OpenAMコンソーシアム 理事
- OpenIDファウンデーション・ジャパン
Enterprise Identity WG リーダー
- twitter.com/paoneJP
- facebook.com/takashi.yahata
- <https://paonejp.github.io>
- OpenID, OAuth, SCIM, Python, OpenAM, OpenIDM, ...



統合認証ソリューション Themistruct を提供しています



Themistruct-WAM

シングルサインオン
認証基盤ソリューション

Themistruct-IDM

ID管理ソリューション

Themistruct-CM

電子証明書発行・管理
ソリューション

ワンタイムパスワードソリューション

Themistruct-OTP

システム監視ソリューション

Themistruct-MONITOR

 Themistruct
Identity Platform AWS 対応版

クラウド、IoT時代の
“All in one”
認証プラットフォーム

統合認証ソリューションに取り組んで15年

- 2001年ごろから基盤部門で
- セキュリティソリューションの一環として
- 2005年からはオープンソースソフトウェアをベースに開発をし
- 2009年からThemiStructブランドを立ち上げて
- 2013年からは専門部隊として
- 気がつけば昨年（2016年）は 15周年 Year でした

なぜ認証基盤を作るのか？

認証基盤を作るメリット

① 利用者が便利になる

- 作業効率の向上
- IT活用の促進

② セキュリティレベルのばらつきがなくなる

- 開発者に依存したばらつき
- ユーザーに依存したばらつき

③ システム開発がしやすい

- アプリ毎の認証機能開発は不要
- サブシステムに分割した開発の実現

④ 認証方式の変更がしやすい

- ID/パスワードを使った認証
- 多要素認証への対応
- 新しい方式への対応

セキュリティのための認証基盤

認証基盤のユースケースが拡大

ユースケース	狙い・特長
社内システム利用のガバナンス強化	認証処理の一元化、人事システム等と連動したタイムリーなIDメンテナンス。
取引先へのシステム提供	取引先ユーザーの確実な認証。IPアドレスや電子証明書の併用。
クラウドサービス利用時、スマホ・タブレット利用時の認証強化	社外からの利用の制限。社外での利用時の追加の認証の実施。社用端末の識別。クラウドサービスのIDメンテナンス。
顧客（一般消費者）向けの情報提供、サービス提供	SSOによる顧客への利便性の提供。複数アプリへの展開。収集した属性の活用。他社サービスとの連携。


「ビジネスのデジタル変容」が拍車をかける

モバイル、クラウド、
ソーシャルの活用

ビジネスプロセス
の自動連携

ユーザー情報の
活用と分析

多様なデバイスの
連携、活用

- 
- ユーザー毎に最適化されたサービスの提供
 - 業務効率の向上、提供スピードの向上

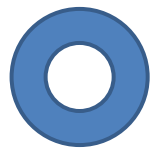
セキュリティのための認証基盤

□ 情報セキュリティの3要素 (CIA)

- 機密性: Confidentiality
- 完全性: Integrity
- 可用性: Availability → 本当は最も優先されるべき要素



利用を制限するための認証基盤



クラウド、デバイス、サービスを活用してもらう
ための認証基盤

“Identity is the new perimeter.”

□ ネットワーク型の境界防御が効かない時代になった

- 守るべき情報資産は壁 (Firewall) の外にある
- アクセスする主体は壁の中にも外にもいる

□ アイデンティティを用いた情報へのアクセス管理が重要に

- アイデンティティによるアクセスの制御
- アイデンティティによるアクセスの監視

アイデンティティ？

エンティティ（実体）

認証

アイデンティティ

コンテキスト

- ・ 属性の集合
- ・ コンテキスト毎に複数



ひとりの人

アクセスする実体を
システムが認識している
アイデンティティと
紐付けること＝認証

社員番号: 1234567890
名前: 八幡 孝
所属コード: 7777
...

名前: 八幡 孝
所属: オージス総研
担当セッション: AAA
...

...

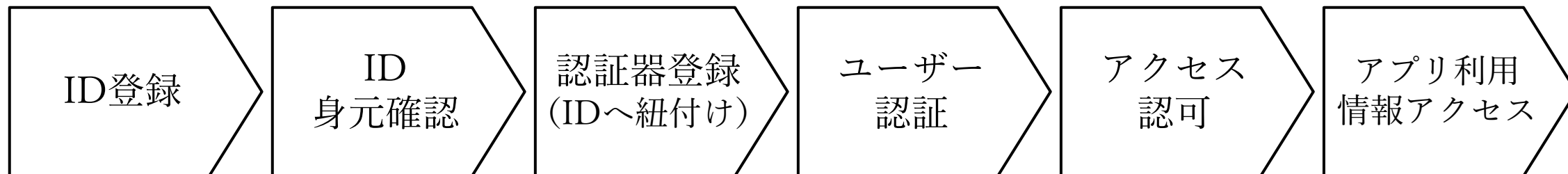
オージス総研
の社員として

講演者として

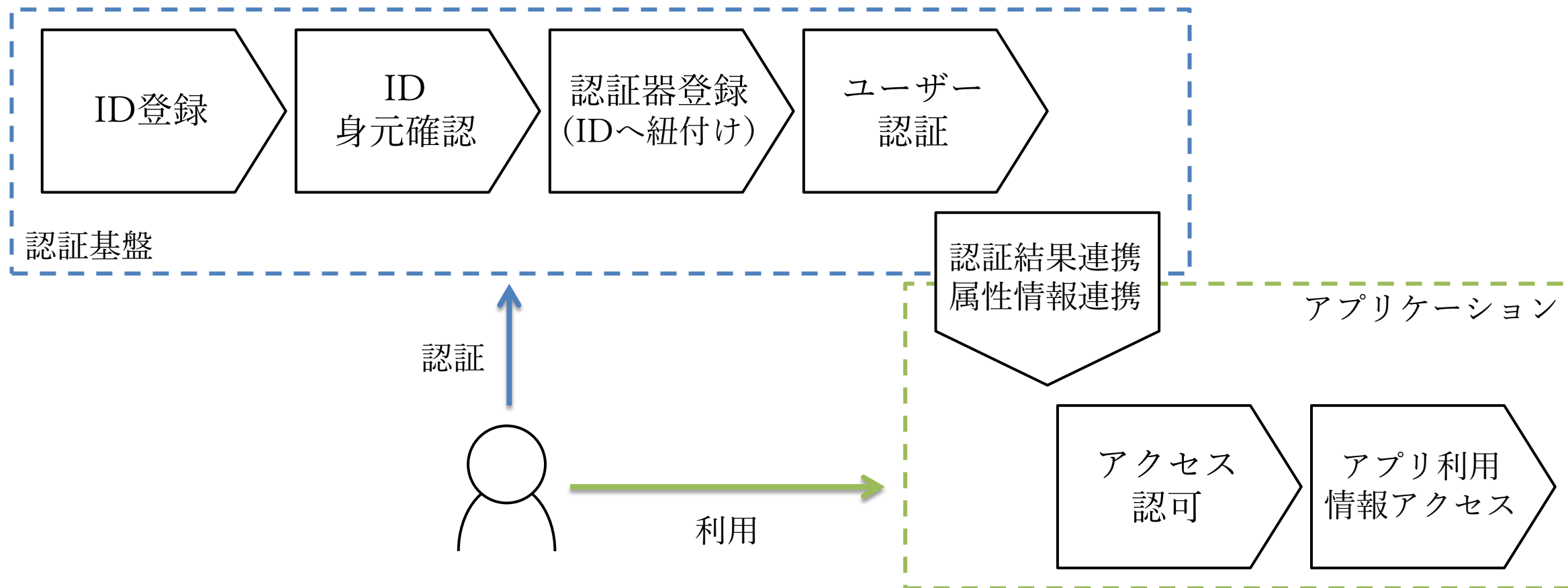
家族からみた

⋮

アイデンティティ & アクセス管理のフロー



アイデンティティ & アクセス管理のフロー



アプリケーションは何の情報を必要としているか？

□ ① ユーザーの認証状態の確認

- 識別子、認証方法、認証時刻、...

□ ② ユーザーが誰であるかの把握

- 名前、所属、役職、メール、...
- 名前、住所、電話、メール、...
- その人向けのサービス・機能を提供

□ ③ ユーザーの権限の判定

- 社員番号、組織番号、権限番号、...
- 契約中のサービスコード、
- その人がやれることを正確に確認

□ ④ 関連する情報の参照と利用

- 他ユーザーの属性、組織の属性、...

□ ⑤ データ処理のためのマスタデータとしての利用

- 社員マスタ、組織マスタ、権限マスタ、...

アプリケーションに必要な情報を提供する方法

① ユーザーの認証状態の確認

② ユーザーが誰であるかの把握

③ ユーザーの権限の判定

④ 関連する情報の参照と利用

⑤ データ処理のための
マスタデータとしての利用

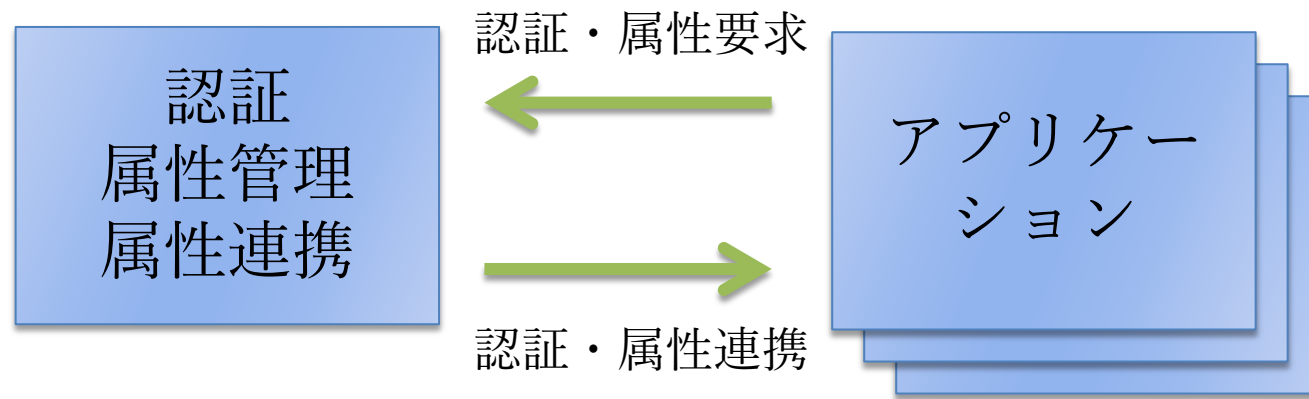
アイデンティティ
連携の技術が必要

認証連携

属性連携

定期プロビジョニング or
マスタリポジトリの参照

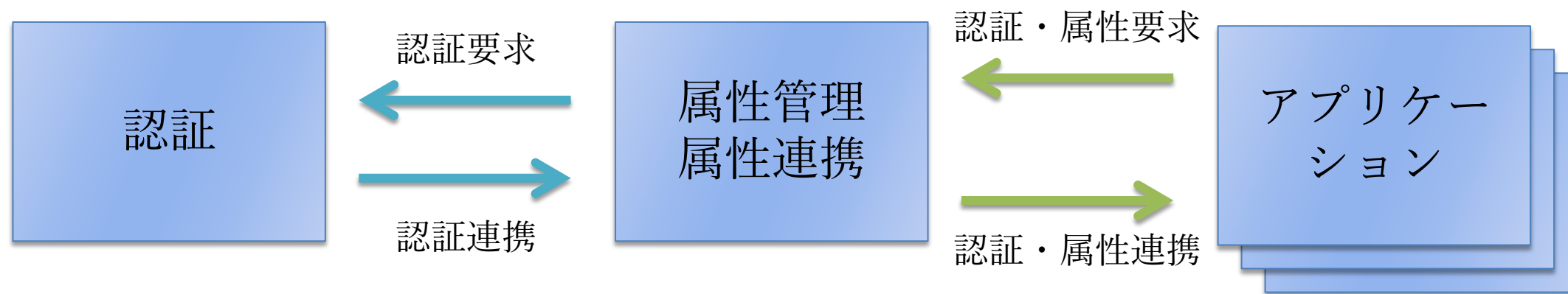
認証基盤を作る・サービスを展開する



ユーザーの認証
アプリが必要とする
属性の管理、提供、記録

ユーザーごとに
最適化された
サービスを提供

外部IdP活用で、より使いやすく、より管理しやすく



外部の信頼できる
認証システム(IdP)を利用

ドメインログオン、
Google, Facebook, ...

アプリが必要とする
属性の管理、提供、記録

ユーザーごとに
最適化された
サービスを提供

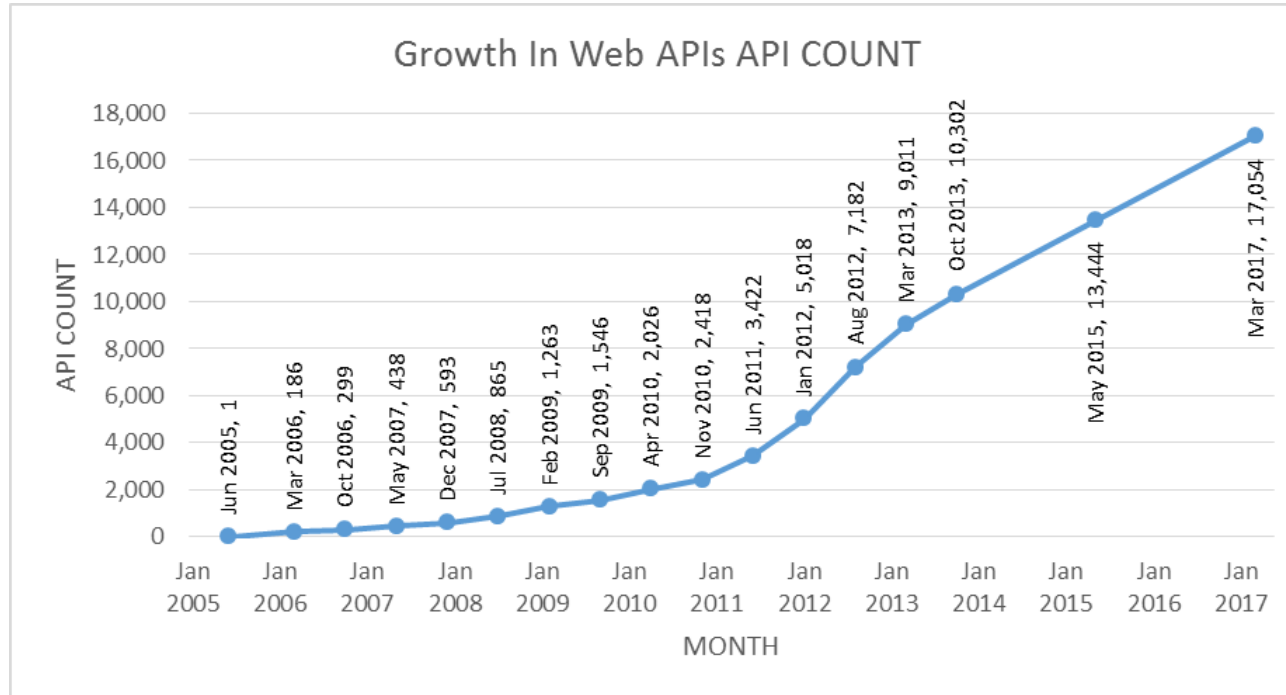
認証基盤にとどまらず アイデンティティプラットフォームが 必要になっている

Web API のアクセス管理への展開

Web API の利用が広がっている

増加を続ける Web API（公開型）

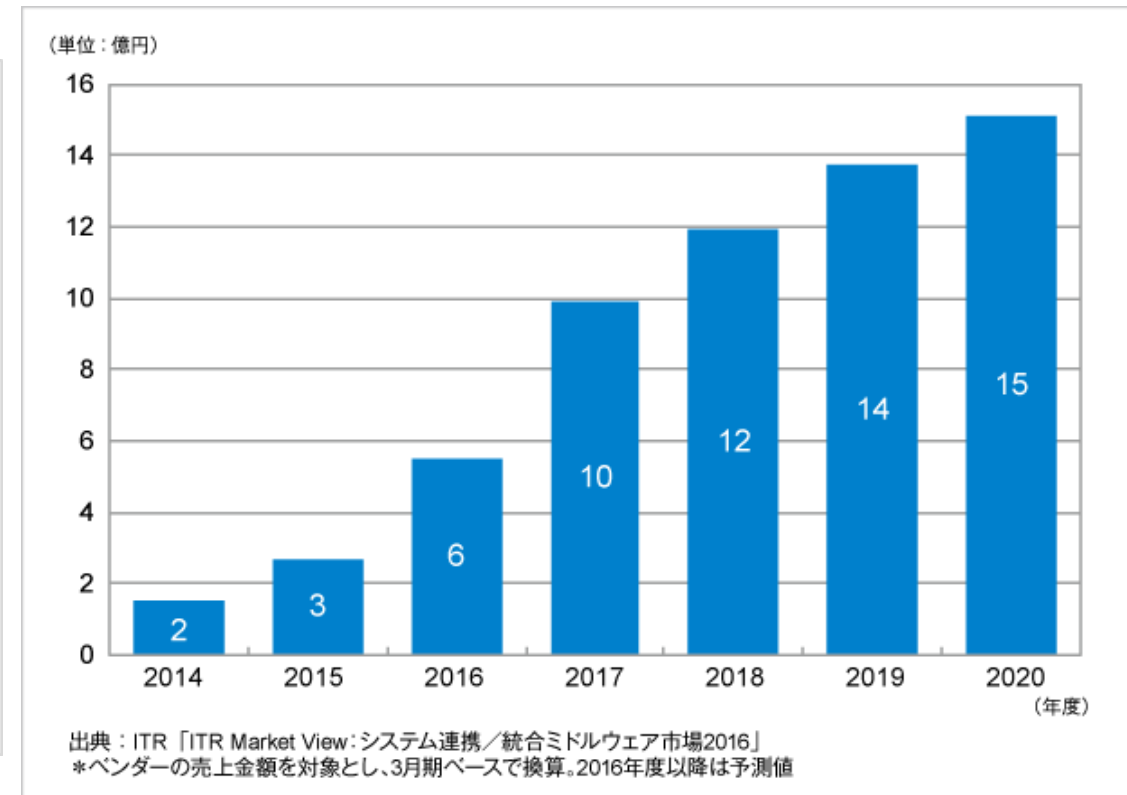
ProgrammableWebの情報を基に当社で加筆・グラフ化



引用元: <https://www.programmableweb.com/api-research>

「API管理市場売上金額推移および予測」

ITR社プレスリリースより



引用元: <https://www.itr.co.jp/company/press/161213PR.html>

Web API はデジタルビジネスの中核技術と言われている

“ デジタルイノベーションやデジタルトランスフォーメーションを実現するコア技術のひとつとして導入が進む ”

ITR社「**ITRがAPI管理市場規模推移および予測を発表**」より

引用元: <https://www.itr.co.jp/company/press/161213PR.html>

“ まさしく、ハイブリッドクラウド環境におけるAPIエコノミーが、DXを実現しているのである。 ”

IDC Japan社「**～ デジタルトランスフォーメーション・エコノミーの萌芽 ～
2017年 国内IT市場の主要10項目を発表**」より

引用元: <http://www.idcjapan.co.jp/Press/Current/20161213Apr.html>

Web API をどう保護するか？

□ Web API 利活用が広がる

- 内部での Web API 技術の利用
- 外部の Web API の活用
 - Closed Network での提供
 - Open Network での提供
- 外部への Web API の公開

□ ネットワーク型の境界防御だけでは保護できない

Web API でもアイデンティティを用いたアクセス管理が必要

Web API アクセス管理を考える切り口

□ クライアント（Web APIへのアクセス元）の認証

- ネットワーク、電子証明書、ベーシック認証、APIキー、...

OAuth の Client Authentication

□ 適切なアクセス権限の提供

- アクセスできる情報の範囲、行なえる操作の内容

OAuth の SCOPE へマッピング

□ 情報の所有者によるアクセスの許可

OAuth による認可（と OpenID Connect による認証）

外部の Web API を活用するには？

□ Web API でアクセスするリソースが企業に帰属するなら

- クライアント認証をしてアクセス

□ 個人（従業員など）に帰属するなら

- 企業がアクセスを許可すればよい場合

- クライアント認証をしてアクセス

- 個人がアクセスを許可すべきものの場合

- OAuthによる認可、個人の認証への対応が必要

- 個人の認証は、自社の認証基盤からのSSOに対応することも検討

外部へ Web API を公開するには？

- Web API で提供するリソースが誰に帰属するかを分析する
- リソース毎に付与する権限を整理する
- リソース x 権限 を SCOPE にマッピングする
- OAuth による認可を実装する
- ユーザーを認証する機能を実装する
- ユーザーが使用している認証基盤とのSSOに対応する

アイデンティティ技術の標準化動向

アイデンティティ連携を実現する標準技術たち

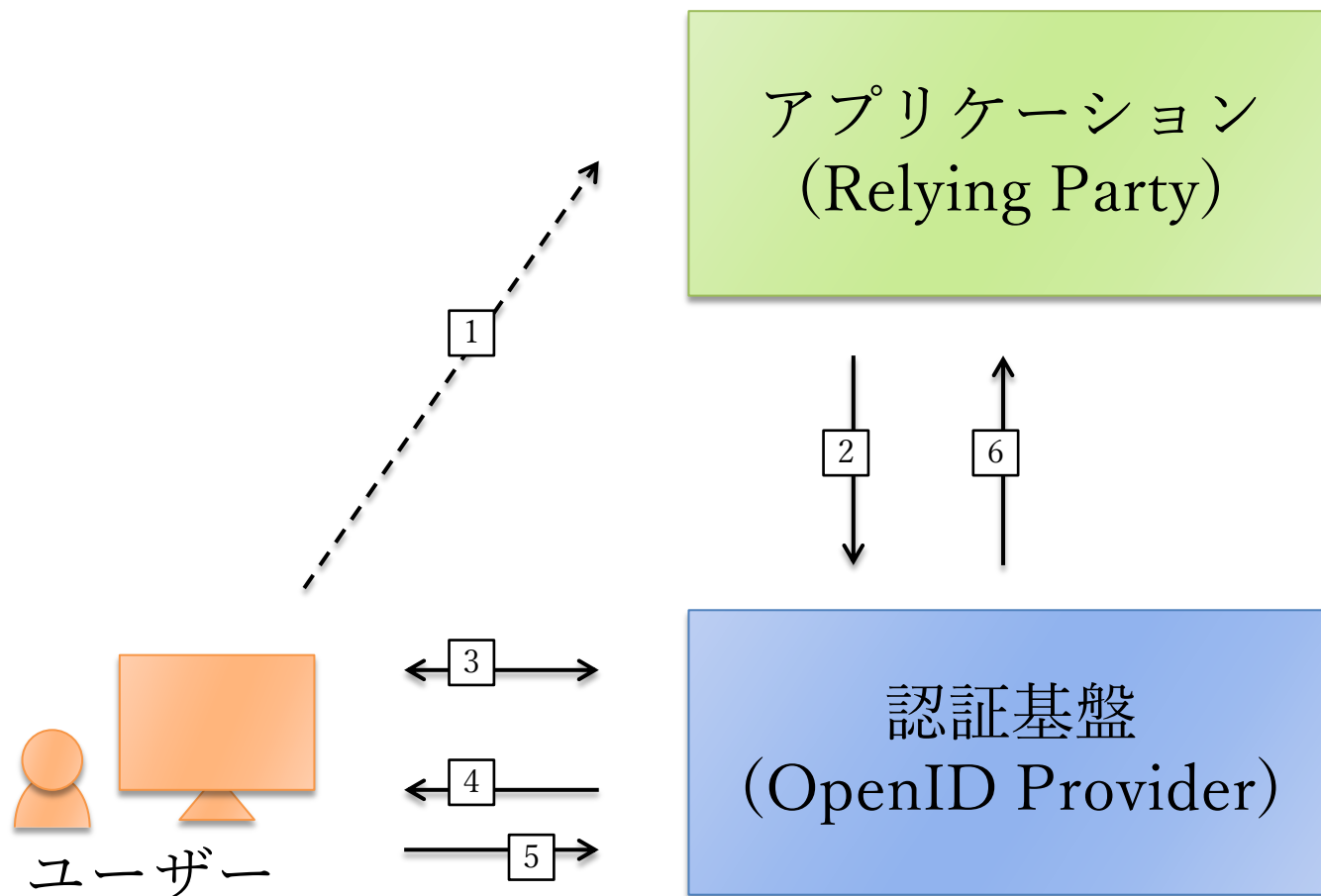


これらの技術は標準化が進み、製品・サービスへの実装も浸透している。

アイデンティティ連携を実現する標準技術たち

標準技術	概要
OpenID Connect	認証されたユーザーの情報（認証状態）を、サイト間、アプリケーション間で安全に伝達する仕組み。
SCIM	ユーザーに関する各種属性情報へのアクセス・操作をする仕組み。（属性情報の閲覧、検索、登録、更新、削除など）
OAuth	ユーザーの情報への特定のアクセス・操作を、情報を所有するユーザーの同意に基づき、アプリケーションに対して許可する仕組み。

OpenID Connect を使った認証連携 (SSO)

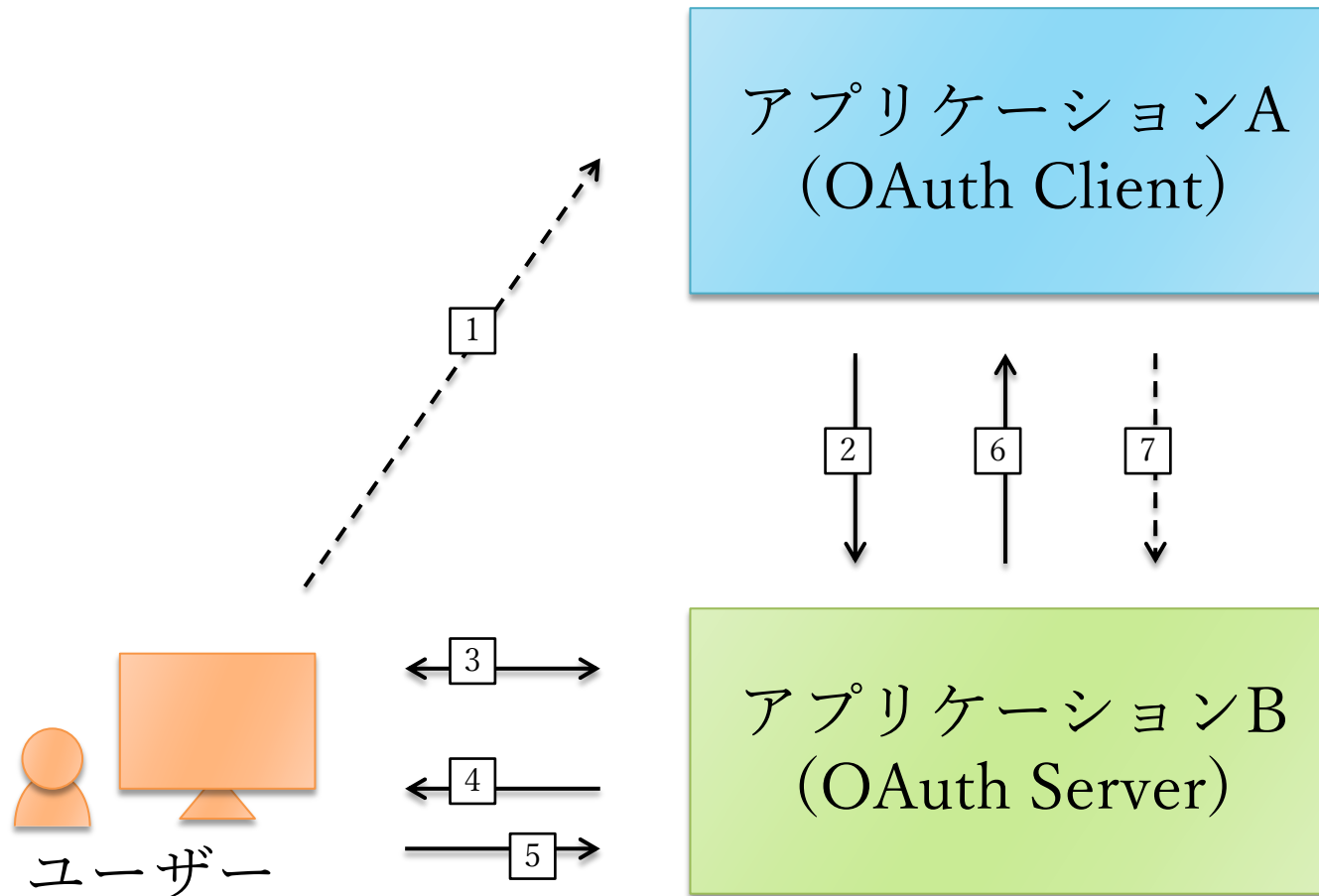


1. ユーザーがアプリケーションにアクセス
2. このユーザーは誰？
3. ユーザーを認証
4. このアプリにログインしようとしているけど良い？ユーザー名とメールアドレスを求めているけど渡しても良い？
5. いいよ
6. このユーザーは、〇〇さん。メールアドレスは△△。最後に認証したのはこの時刻。認証方法は□□。

ユーザー属性の連携は OpenID Connect UserInfo End Point による方法のほか、SCIM を併用した方法も採れる。

※ 概念を図示するため、実際のリクエスト・レスポンスの方法、回数等を簡略化しています。

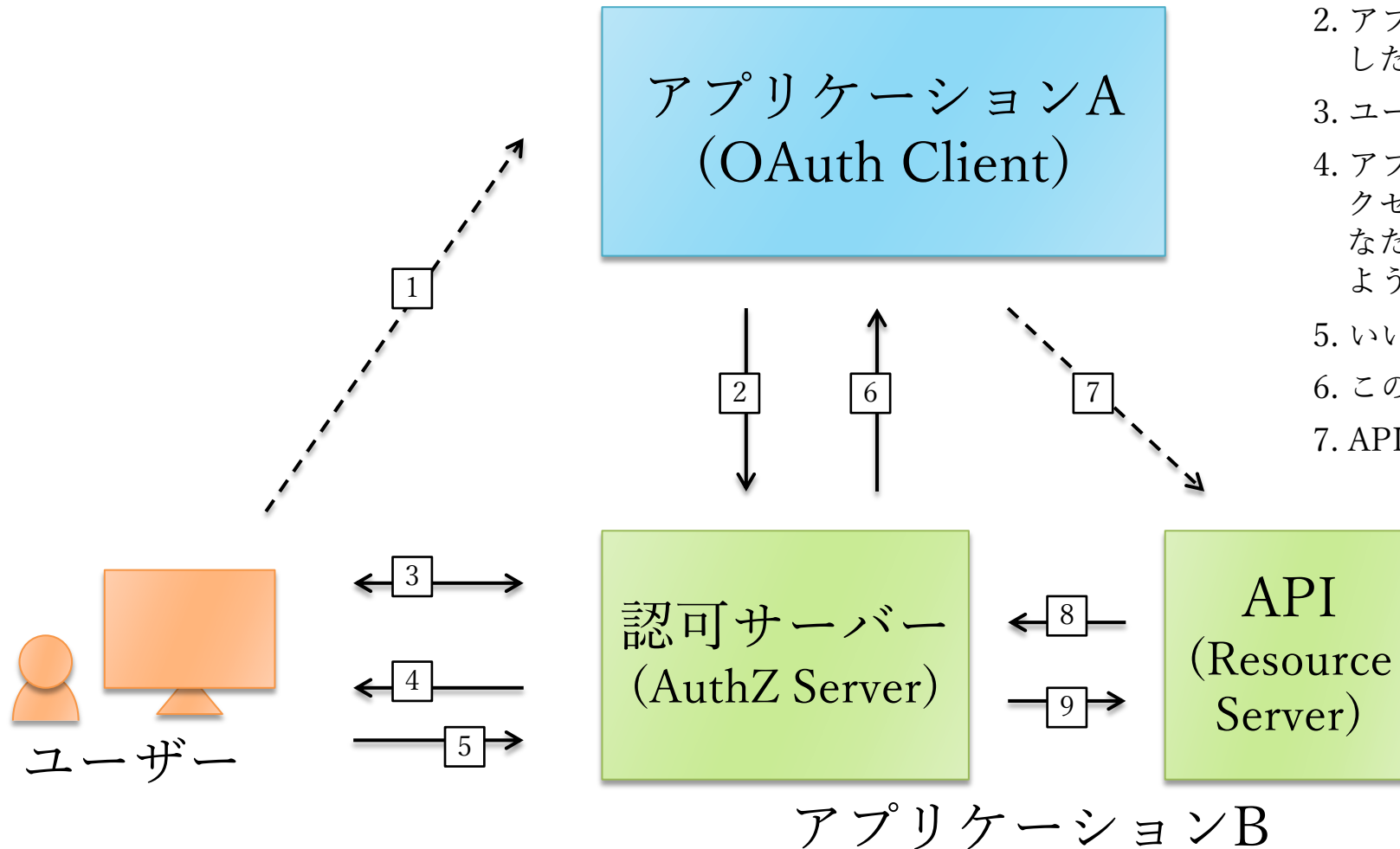
OAuth を使ったアプリケーション間API連携の許可 ①



1. ユーザーがアプリAにアクセス
2. アプリBのユーザー情報のAPIにアクセスしたい
3. ユーザーを認証
4. アプリAが、アプリBのあなたの情報にアクセスしようとしているけどいい？（あなたの代わりにアプリBでこんな操作しようとしているけどいい？）
5. いいよ
6. このトークンでAPIにアクセスして
7. APIにアクセス

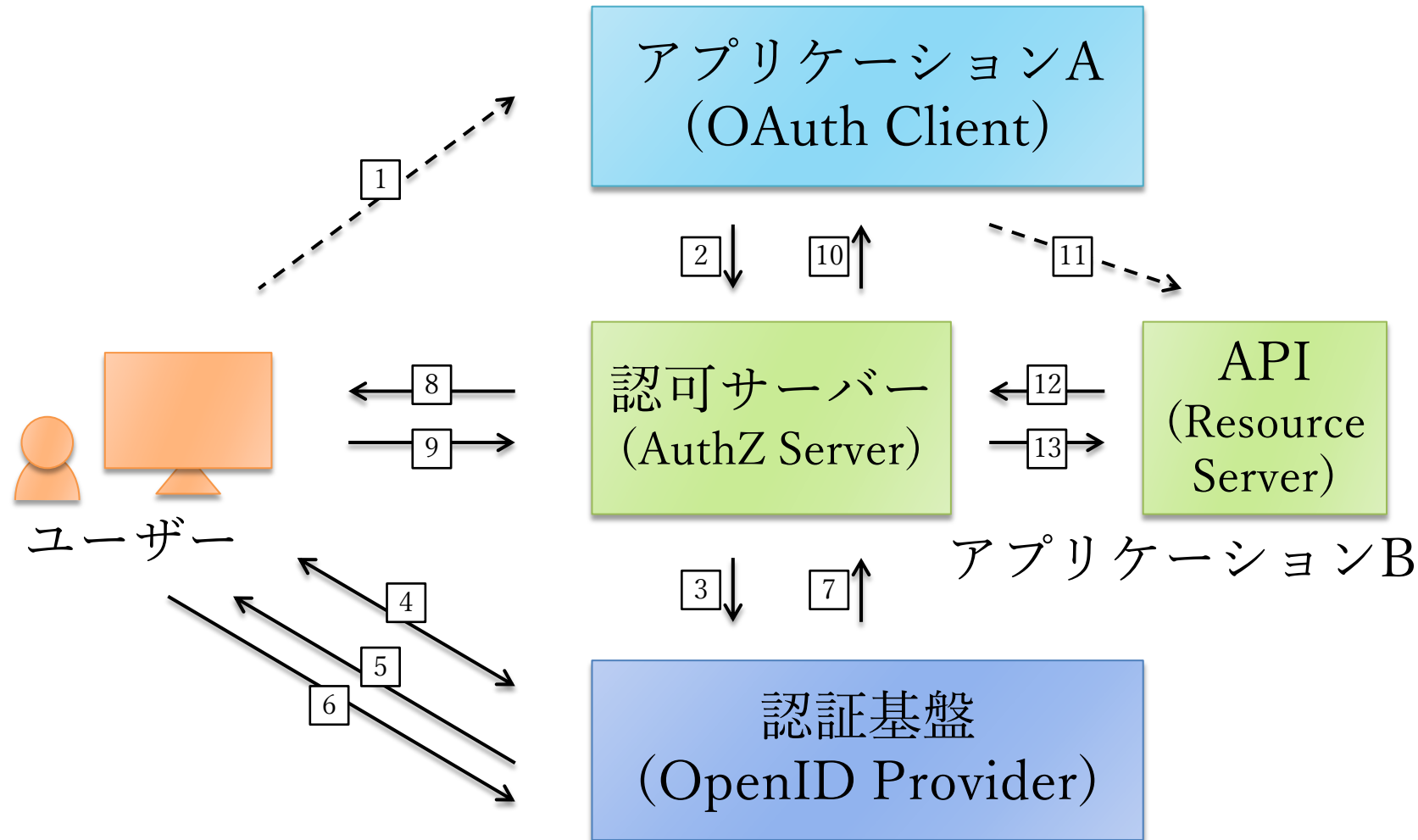
※ 概念を図示するため、実際のリクエスト・レスポンスの方法、回数等を簡略化しています。

OAuth を使ったアプリケーション間API連携の許可 ②



※ 概念を図示するため、実際のリクエスト・レスポンスの方法、回数等を簡略化しています。

認証基盤と連動したAPI連携の認可



1. アプリAにアクセス
2. APIへのアクセス許可を要求
3. ユーザーの認証を要求
- 4.~7. 認証結果を連携
- 8.~10. アクセストークンを応答
11. APIへアクセス
- 12.~13. アクセストークンを確認してAPIを実行

※ 概念を図示するため、実際のリクエスト・レスポンスの方法、回数等を簡略化しています。

ThemiStruct ソリューション での対応

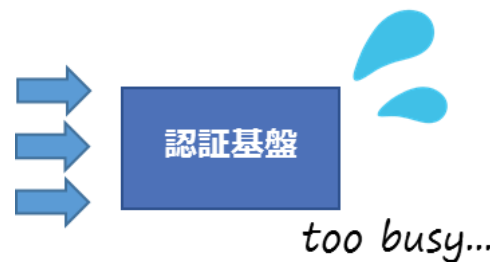
認証基盤 から アイデンティティプラットフォームへ

広がるユースケース 増えるアクセス 高まる重要性

おのずと「非機能要求」のレベルもアップ

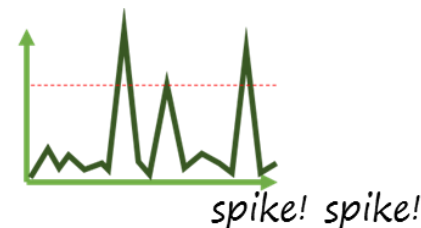
膨大なトラフィック

- 認証基盤の役割増加
- 提供するサービス・システムの増加
- ユーザー数・デバイス数の増加
- API利用の増加



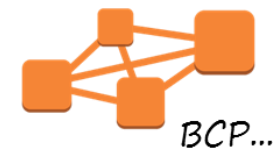
スパイクアクセス

- キャンペーンやニュースサイト掲載などにより定常的なアクセスと比較し、予想不可な大量のアクセスが発生する



システム停止を回避

- 認証基盤役割の増加に伴い、システム停止や遅延による機会損失が大きくなり、事業継続性や機会損失回避など可用性要求のレベルが格段にUPした



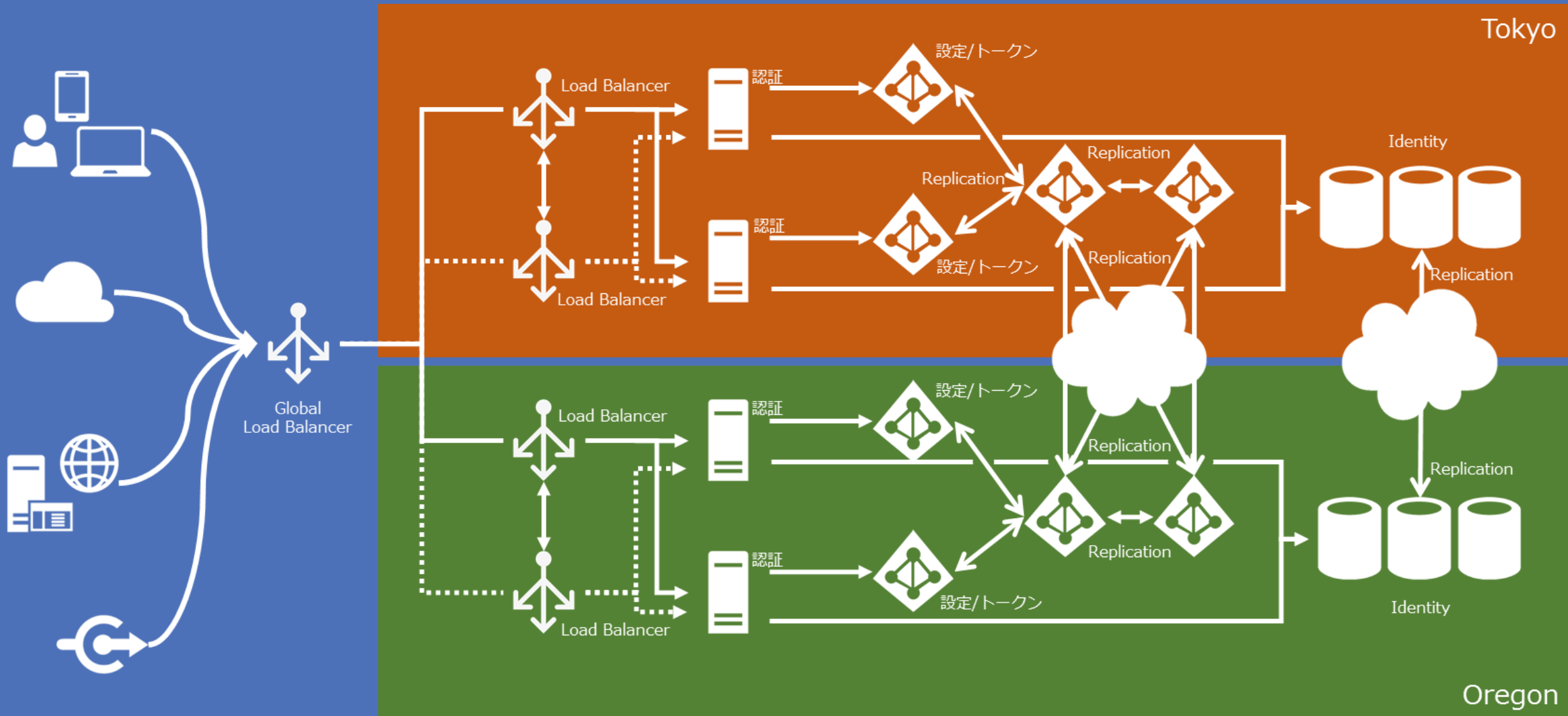
スピードスタート・スモールスタート

- 短期間でビジネスをスタートさせたり、事業規模に応じてスタート、柔軟にスケールできる必要がある



very tight.

これまで： 高度な基盤設計。入念な可用性、性能のテスト。プロジェクトの巨大化。



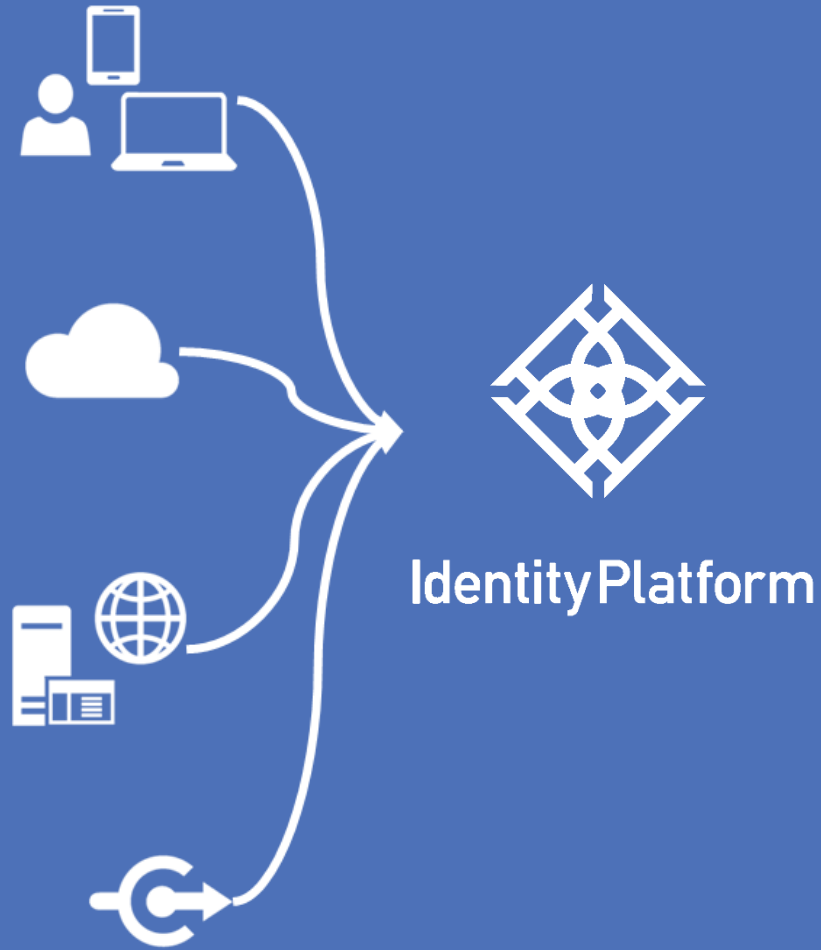
当社のアプローチ



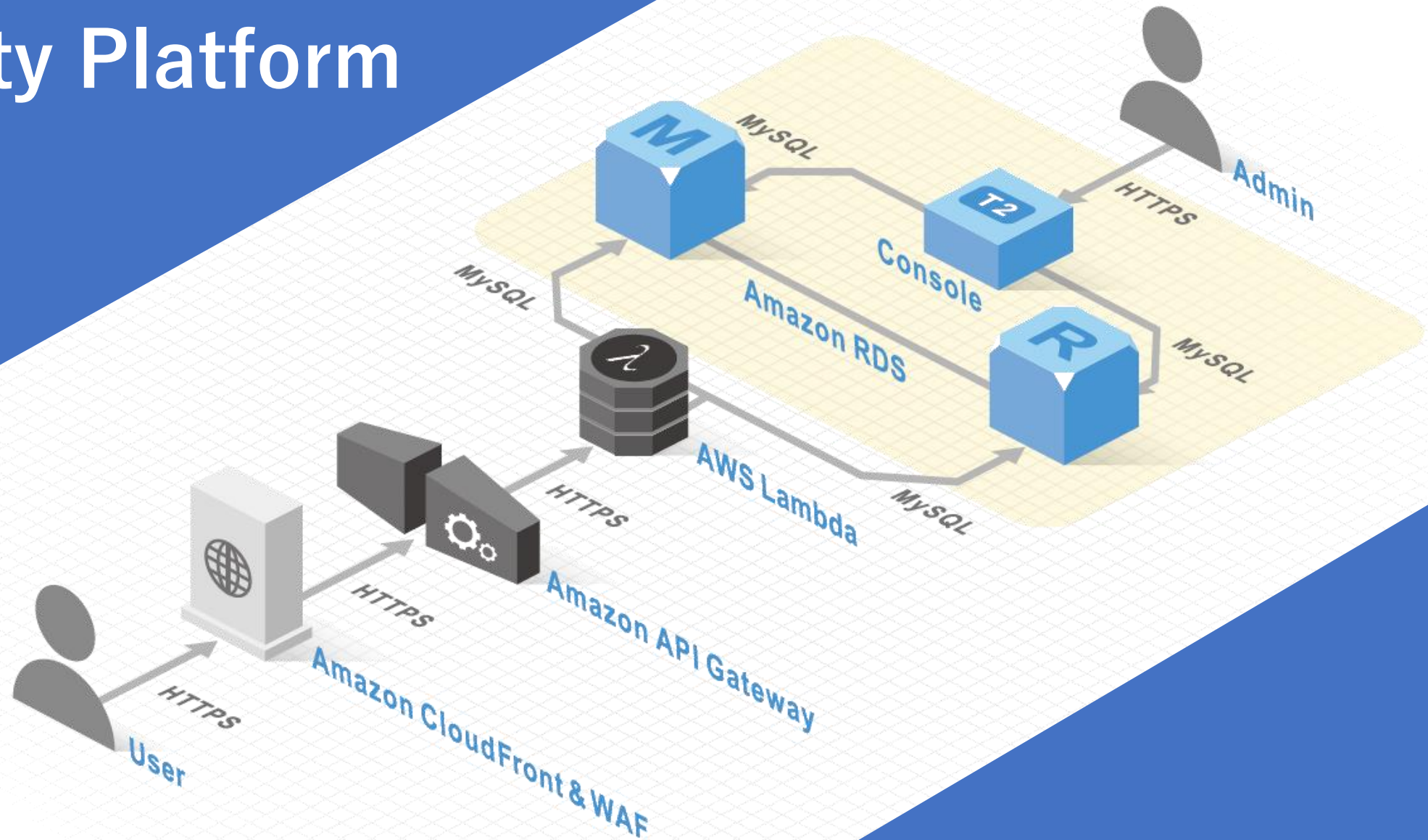
- ✓ AWSのPaaS上で動く
アイデンティティ連携基盤
- ✓ ≠ OpenAM、OpenIDM
- ✓ ≠ IDaaS
- ✓ オージス総研自社商品



これから： 基盤の設計、テストは不要。プロジェクトの迅速なスタートアップ。



ThemiStruct Identity Platform



OpenID Certified になりました。



オーグス総研の Themistruct Identity Platform は OpenID Connect™ プロトコルの OP Basic, OP Implicit, OP Config の3つのプロファイルに適合した OpenID Certified™ 実装です。

<http://openid.net/certification/>

そして...

ビジネスの「デジタル変容」が必要な時代
認証基盤エンジニアは「Identity Professional」への
変容が求められています

**オージス総研では
Identity Professional の育成の
取り組みを始めています**

まとめ

まとめ

- 認証基盤のユースケースが広がってきた。デジタルビジネスに対応できる認証基盤構築のニーズが高まる。
- 認証だけではなく、利用者のアイデンティティを管理、提供するプラットフォームが必要となる。
- アイデンティティ連携技術の標準化、製品・サービスへの実装は急速に進行中。標準に適合して、相互接続性を高める。
- Themistructソリューションは Themistruct Identity Platform をラインアップに加え、皆さまのビジネスをサポート。

ご清聴ありがとうございました



ThemiStruct
テミストラクト

【お問い合わせ先】

株式会社オージス総研

TEL: 03-6712-1201 / 06-6871-7998

mail: info@ogis-ri.co.jp



参考資料

統合認証ソリューション Themistruct



Themistruct-WAM

シングルサインオン
認証基盤ソリューション

Themistruct-IDM

ID管理ソリューション

Themistruct-CM

電子証明書発行・管理
ソリューション

ワンタイムパスワードソリューション

Themistruct-OTP

システム監視ソリューション

Themistruct-MONITOR

 デモストラクト Themistruct
Identity Platform AWS
対応版

クラウド、IoT時代の
“All in one”
認証プラットフォーム

ThemiStruct Identity Platform



- ✓ AWSのPaaS上で動く
アイデンティティ連携基盤
- ✓ ≠ OpenAM、OpenIDM
- ✓ ≠ IDaaS
- ✓ オージス総研自社商品

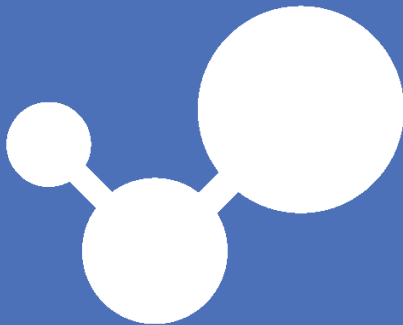




**あなたの Identity Platform が
すぐ構築可能**



アイデンティティ連携



**事業成長や突発的アクセスに
合わせたスケーリング**



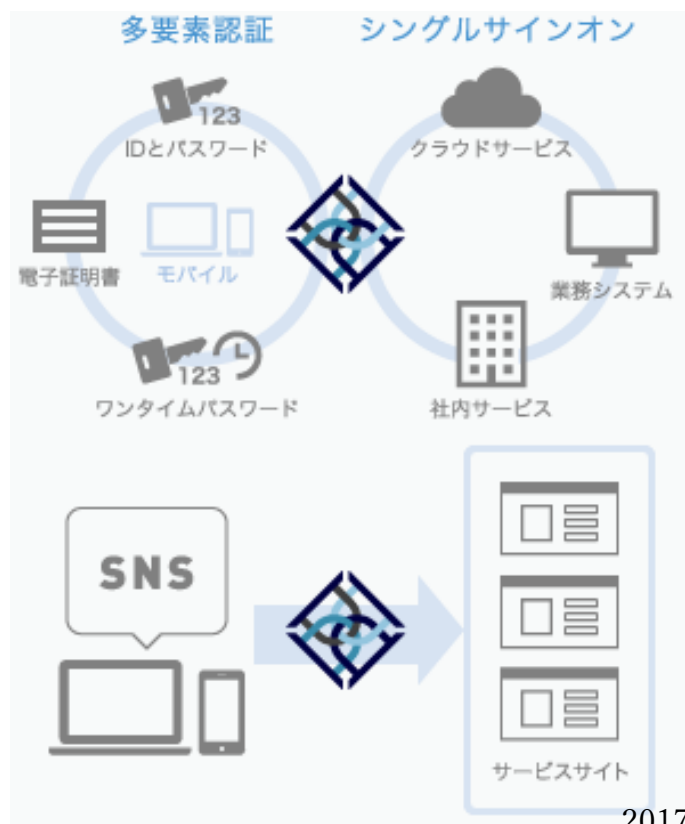
アクセスセキュリティ強化

ThemiStruct Identity Platform の特徴 (1)



認証システムの短期導入が可能

ThemiStruct Identity Platform はクラウド上に設置され、短期間で従業員、カスタマー、ビジネスパートナーに認証サービスを提供できます。また、APIを利用し既設サイトへの組み込みも容易です。



ログインを1回に、認証方法も組合せ自由

ThemiStruct Identity Platform に一度ログインを行うことで、ユーザーが利用したい各サイトへシングルサインオンすることができます。その際のログインではIDとパスワードによる認証だけでなく、ワンタイムパスワード・電子証明書、指紋・指静脈情報やインベントリー認証などを利用することができます。また利用システムごとの設定により、各サイトやコンテンツのセキュリティ、ユーザビリティ要件に応じた認証を行うことができます。

ユーザー登録のハードルを下げ、新規ユーザー登録率をアップ

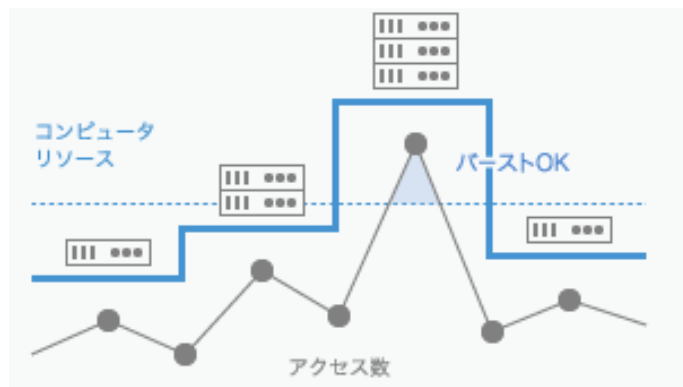
FacebookやGoogleなどのユーザーが普段使っているSNSやWebサービスのアカウントを利用して、気軽にユーザー登録が可能です。サイトへの新規ユーザー登録率、ユーザビリティ、コンバージョン率を向上させます。ユーザー自身による登録や、管理者による一括登録も可能です。

ThemiStruct Identity Platform の特徴 (2)



各システムへ必要なときに、必要な情報を連携できます

ThemiStruct Identity Platform から各システムへ必要なタイミングで、必要なユーザー情報を連携することができます。各システムでユーザー情報の管理が不要になります。



事業成長に合わせたスケーリング、突発的アクセス集中への対応

サーバレスアーキテクチャにより、事業環境の変化や突発的アクセス集中に合わせて、自由にかつ自動でコンピュータリソースの拡張・縮小を行えます。